

表 EUデューデリジェンス・ガイダンス文書に基づく強制労働のリスク要因(レッド・フラッグ)一覧

I カントリーリスク要因
・ 世界労働機関(ILO)基本条約を批准していない国や、実施の実績が弱い国
・ 大規模な国家開発プログラムのための大衆動員や、マイノリティーに属する国民を対象にした労働・職業プログラムなどを国家主導で行っている国
・ 平和的なストライキ行動を非合法化している政治体制
・ 囚人労働の政策やプログラムを有している国
・ 政府や雇用主による脅迫などが存在するために、詳細なリスク評価が不可能である場合
II 移民(出稼ぎ)および非公式な労働に伴うリスク要因
・ 移民(出稼ぎ)労働者、中でも非正規の移民労働者の雇用
・ 政府系のあっせん業者を含む第三者によってあっせんされた労働者
・ 住み込み労働者、または、住み込みではないものの居住面において雇用者との関係性のある労働者
・ 非公式に雇用されている労働者の存在
・ 書面による労働契約の不存在
・ 職場(特に危険を伴う環境下)における子供や青少年の存在
・ 現地語を話さない労働者
III 債務に関するリスク要因
・ 労働者に対する信用協定や債務スキームの存在
・ 労働者自身による賃金の自由な処分に対する制約(住居費として不相応な金額が賃金より控除される場合など)
・ 労働者が自身の身分や居住に関する書類に自由なアクセスを有していない場合
・ 国の法律や労働協約などによって許容される時間を超え、ペナルティ賦課の脅威を伴うような超過勤務の強制
・ 身体的および心理的な虐待、暴力、ハラスメント

(出所)EUデューデリジェンス・ガイダンス文書(2021年7月13日発表)を基に作成